

古人骨からわかる縄文時代の婚活事情

千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 **むらまつ 村松** **ひろな 裕南**



ここ数年のコロナ禍の行動制限によって、人と人との出会いの場が減り、婚姻件数が減少しているという。遙か昔、縄文時代では、同時期に10棟を超えない程度の竪穴住居に5～6人が住み、50～60人程度で集落を営んでいたと推定されている。集落存続のために人口の維持は重要な問題であり、集落内婚や外婚が行われていたと考えられているが、集落間で婚姻を結ぶ外婚は、地域ネットワーク形成のためにも重要であったことが想定されている。結婚には、このように重要な機能があり、現代のような個人間の自由意思による恋愛は一般的ではなかっただろう。

考古学では、縄文時代の婚活事情を集落内の親族構造や結婚後の居住の在り方から明らかにしようとする研究があり、抜歯を通婚儀礼によると仮定して、抜く歯の組み合わせの違いを属する集団の違いと推定し、婚姻による集落内への移入者を推定するなど縄文時代の社会組織に迫ってきた。

また、カリフォルニア・インディアンなど、縄文時代の人々と似た経済活動を行っている世界の狩猟採集民の生活を調査し記録した民族学研究からも縄文時代の婚姻状況の復元が試みられてきた。このように、考古学や民族学によって推定されてきた縄文時代の結婚事情だが、人骨の形態やDNAの分析から、より直接的にアプローチした研究事例もある。

歯の大きさや形は、両親からの遺伝の影響が強いため、計測したデータを統計的に分析

することで血縁関係を知ることができ、茨城県にある中妻貝塚では、集団外からの婚入者があった可能性が示されている。

対して、自然科学的な研究に遺伝子情報を利用したものがある。茂原市所在の下太田貝塚は、200体以上の人骨が出土し、一つの墓に多数の人骨を再埋葬する特殊な墓が発見されるなど、縄文時代中期から晩期の埋葬方法の時期変遷を捉えることができる貴重な遺跡である。母系遺伝するため母親を辿ることができるミトコンドリアDNAを分析した研究によれば、下太田貝塚に埋葬されていた人々は、多くが同一母系を示し血縁関係にあったという。ひとつの母系集団を中心にして、そこに遺伝子型の異なる人が外から移住してきた可能性が示されている。同様な埋葬儀礼を行っている中妻貝塚からは、下太田貝塚の人と同じ遺伝子型をもつ人物が見つかっており、両遺跡間になんらかの人の移動を伴う関係があったことが推定されている。

集落間での人間の移動には食料問題や人間関係など様々な理由が考えられるが、婚姻による移動は大きな理由の一つだっただろう。下太田貝塚と中妻貝塚の距離は直線にして50kmもある。車や鉄道の無い時代に50kmも離れた村に嫁入りまたは婿入りするだろうか疑問に思う人もいるだろう。狩猟採集民の移動領域は半径10kmともいわれているが、水運を利用したとすれば無理な距離ではないという。これを遠いと思うか、近いと思うか。

千葉教育 桜 (No. 679) 令和5年3月16日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 神子 純一
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465